



町屋6丁目ミニサロンの これまでとこれから

世話人 井餘田隆也

設立の経緯

- ・震災後の2011年4月以降、17世帯50人が6丁目の住人になる(現在は16世帯)。
- ・最初に訪ねてきてくれたのが荒川区社協。その後、社協が区内避難者の交流会や生活応援市、弁護士など専門家による相談会を実施。
- ・6丁目には集会所があり開催しやすいことから毎月ミニサロンを行うことに。

仲間作り

- ・6丁目の避難者17世帯の希望者に対し仲良くなれるようにと、福島の新聞の回覧を開始。2号棟と3号棟に住む避難者が回覧の順番を変えて、お互いが名前と部屋を覚えていった。回覧は2年、173回続いた。
- ・新聞の戻りが遅いと、部屋を訪ねて様子を伺うようにした。
- ・近隣の施設に入っている避難者がサロンに来れるように社協の車や仲間同士で送迎も行った。



自治会との関係作り

「避難先の文化に溶け込む方法」とは・・・

- ・棟ごとの自治会のルールを知り、守る。
行事には、積極的に参加する。
『夏祭り』や『文化祭』、『草取り』など・・・
- ・それでも、ペットやごみの分別方法、当初はごみを出す曜日や時間帯などで、地域住民ともめることも。



伝えたいこと

- ・避難者は『避難者』の顔をしていてはいけない。
仲間になれば、お互い話せば、理解し合えると信じて。
 - ・人が明るく、元気になっていくのを見るのは誰でも嬉しいはず。
 - ・難しいことにばかり、目を向けるのはやめる。
何か問題が起きたら、解決のためすぐに行動を起こす。
- 
- 

これからは...

- ・社協の支援がなかったらできなかったミニサロン。
仲間や地域と関係ができたから、これからも続けていける。
- ・震災があったからこそ、再認識できた当たり前の幸せ。
家族、地域など
人と人とのつながり＝「絆」を
言葉だけでなく本物にしたい。



荒川区社協が発行する
区内避難者向け情報誌
『絆』